

T A G E N

発行人◎高田かつ子 編集人◎青山富士夫 事務局◎〒211 川崎市幸区小倉1-1, I-514 下山昌孝方 TEL 044-522-4185

六月四日、定期大会に向かつて

発足一年を顧みる

会長 高田かつ子

昨年五月二十二日、新しく独立した私たちの会もまもなく満一年を迎えようとしています。この一年間、会の中心になつてきた高田かつ子会長にその間の苦心のほどと、次年度への抱負を語ってもらいました。なお一周年目の大会は六月四日に予定しています。(2ページ参照)

「多元的古代」研究会・関東が発足して一年たちました。大和朝廷一元史観を奉ずる人たちとも仲良く、と口で言いながら、その実は多元史観への反対に傾斜を強めようとする旧市民の古代理事会に同調するわけにはいかず、私たちは独立しました。独立までは、反発と否定のエネルギーが働きました。しかしいざ、独立してみると、今度は建設と寛容の姿勢が大切でした。

古田史学の継承と発展と言うのは簡単ですが、具体的に何をしたら良いのか。もとより、多元史観をよく把握された方々が頼みでしたが、そのほかにも、旧来の古代史に疑問を感じながらも、多元史観にはまだなじみの薄い方もあります。そういう方々とも、心を開いて語り合えるよ

うな会の性格でなければ、「古田史学の継承と発展」と言っても言葉だけのことになってしまいます。試行錯誤の討論を続けた挙句「基本原則は厳しく、運営はおおらかに」というようなところに、世話人一同の意見がまとまりました。

発足するや、まず会報を発行するという大仕事に取り組まなければなりませんでしたが、上述のような私たちの方針は、その後の会報の紙面を通じて、皆様におおよそ理解していただけたように思っています。古田先生の、熱のこもったご支援をいただけたことも、何よりも勇気づけられたことでした。

……とは言え、会報にはもったいなく、皆様のご意見を反映させたいものと思っています。会員の方々も、

遠慮がちと申しましょるか、少し遠巻きにして形勢を眺望しておられるような気配も感じます。いっそう積極的にご意見、情報を寄せられるよう、希望いたしております。

郵便料金には頭を抱えています。八〇円、九〇円、さらに五〇グラム以上は一挙に一九〇円に飛躍するのです。何たる非常識、と郵政省に悪態をつきながらも、発送の業務は、毎回有志が集まって楽しんでやっています。どなたか、ご参加下さいませんか。

「会員の発表と懇談の会」「万葉集と漢文を読む会」「山田宗睦日本書紀講座」などの定例会も、それぞれに充実感をもって軌道に乗っています。大きなイベントとしては、やはり二回の古田武彦講演会、夏の中小路駿逸講演会、そして秋の「古田先生と行く縄文長野の旅」の催しでした。大勢のご参加を得た上に、その機会ごとに新たにご入会下さる方が多数あったことも頼もしい限りでした。これらの催しは次年度も引き続き行つて参ります。

これらの催しにも参加する機会のない、より広範な方々のために、ただ今、友好団体が協力して、研究誌を発行する計画が進んでいます。「多元的古代」研究会・九州、「多元